

2025.1.28 開催 宮崎市郡在宅医学学術講演会のご案内

主催 宮崎市郡在宅医会

共催 **7777ライフテック九州株式会社**

宮崎県北の災害への取り組み

～わたしたちはどう生き延びるか～

演者：宮崎県立延岡病院救命救急センター長 金丸 勝弘先生

最近は災害等において「過去に例の無いほどの最大級」といった言葉を良く耳にいたします。大雨や台風などの被害報告も増す中、特に宮崎県においては大規模な地震等を想定した備えや、対策を協議し、有事の際を想定したシュミレーション等も行われているかと思えます。

1995年1月17日に阪神淡路大震災が発生しましたが、このときの医療提供体制の反省から災害医療の重要性が認知され、1996年に災害拠点病院の指定が始まり、2005年にDMAT（災害派遣医療チーム）が誕生しました。さらに被害情報や災害医療の共有ツールであるEMIS（広域災害救急医療情報システム）が2006年に整備され、次に起こるであろう災害に備えてきました。これらの準備が試されたのが、2011年3月11日の東日本大震災です。全国からDMAT約340隊、およそ1500名が参集し、12日間の活動を行うまでに災害医療体制が整備されました。

宮崎に住むわたしたちは、幸いにも大規模地震による災害時の医療はまだ未経験です。この講演会では、この歴史を踏まえた災害医療体制の宮崎県版急性期対応のご紹介と、どのようにして助けが来るまでのあいだ在宅医療を継続させるのかをご講演いただきます。また県北の災害への取り組みも合わせてご紹介いただけるご内容となっております

【ご講演の内容】

- 1, 阪神淡路大震災の反省
- 2, 反省が試された東日本大震災
- 3, 経験を踏まえての宮崎県の準備と X day
- 4, 災害への日本の新展開
- 5, 県北の取り組みと個人的展望

